

黒部と庄川へ二日の旅 土木學會富山縣視察團紀行

新緑の黒部川を探勝するに云ふ丈でも既に遊子の情をそゝるのに、庄川水力電気の大堰堤工事を見學し、高岡市を見、富山市で一泊晚餐會を催すに云ふに至つては多忙の中を二日間割愛するに何等の異議もない。

○

上野から二等汽車往復賃金二十五圓、宿泊晚餐會費ともで金十五圓と云ふ豫告だから北陸視察の初旅としては此上もない安い旅費である。

○

五月十二日午後六時上野驛を發して金澤行の急行列車に乗る一行五十餘人、先輩後輩入り交つて寢臺車は貸切の状態である、車中は忽ち談笑の渦巻き誰やらが

寢臺限り云ふ洒落を飛してから一層談は賑はふ。増結寢臺車が碓氷峠をゴトリゴトリこ登る頃にやつと夢路に入る。

○

十四日早曉空は曇つてゐる。数日前から天氣豫報でオドカサレてゐた例の颯風が今頃富山縣に来るのかと思ふ様な天氣、富山驛で先發の井上副會長に會ひ大阪其他の方面から參會した會員と合併して同勢百十餘人愈々正式の團長に引率されて高岡市に向ふ。

○

高岡驛で加越鐵道に乗換へ高岡電燈會社から寄贈の朝餐にありつき、汽車は出町に着く

直に自動車で庄川沿岸の砂利採集場に行く、こ相憎雨がやつて來た。

○

庄川發電所の工事に使用する砂利が毎日二百立坪以上を採收され本線鐵道でダム工事ヶ所其他に運搬をされる、採收は堤上から川原に向ひ數ヶ所ケーブルカーが設けられ、河原の砂利を堤上の篩分場又は碎石場に運ばれる堤防下は一哩程に渡つて各所に砂利と砂のビンがあり、其

所に貨車を入れて直に積み出来る様になつてをる。

○

何しろ毎日二百立坪以上の混凝土材料

を採集するに云ふ事はナミ大タイの事でない、採集と運搬とピッタリ調子が合はねば混凝土工事は順調に進まないものである。

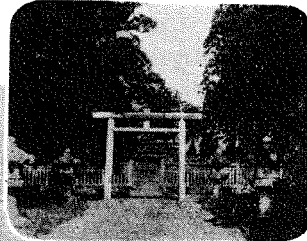
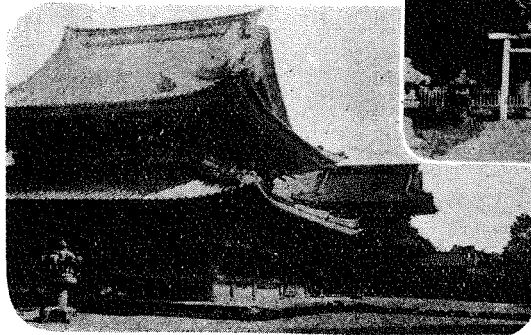
○

雨は益々強くなつたり又小やみになつたりする、會員一同無蓋貨車の中で雨の庄川を眺めながら砂利採集を見ながら砂利運搬貨車で川上へこ進んで行く。

○

視察團一行の乗れる貨車は新緑の庄川沿岸を上へ上へこ進む、やがて發電所工事場を過ぎて小牧堰堤工事場に停車した、噂にのみ聞いてゐた東洋第一の大堰堤工事を今日のあたり見る事の嬉しさよ、雨に濡れた會員一同も勇み立つて此所に下車する。

○



傍らに大テント張の休憩所が出来てをる、先づそれに案内されて、小牧発電所工事に關する圖面及び説明書類を渡される、此處で井上副會長の挨拶に次いで本工事主任の石井額一郎氏が小牧大堰堤の設計と施工に就て簡単な説明をされる。(此の設計圖は本號から三回位に渡つて本誌に附圖として添付しましたから参照を乞ふ)。



(2) 富山市に近き東岩瀬港口、昭和二年五月港内浚渫なり 1,500 噸級の帝海丸初入港の景

(2) A power river dredger succeeded in deepening Higashi-Iwase Port. This picture shows when the Teikwai-Maru, 1,500 Tons, is allowed to port.

○
 混凝土の大量が如何に合理的に施工されつゝあるか云ふ事は、此の大掛りなるミキシングプラントや、チューチングプラントの整然たるを見ても分るのである、此の機械設備や、施工方法は本號から附圖や工事寫眞を参照されたら大體を伺ふ事は出来る。

○
 一同再び雨中に出て堰堤混凝土工事を見る川の兩岸には既に見上るばかりの高さに混凝土堰堤の一部が出来上つてをる、川の中央は見下すばかりの低い處から混凝土を打ち上つてをる。

○
 堰堤の高さは 260 呎、長さ 1,000 呎コンクリート量 48,000 立坪であるが、現在 33,000 坪は出来てをる、今年中には全部竣工の豫定で、目下設備の全能力が発揮されてをる。此の位の大工事であるが現場が全體に整頓してをるのは見る人に好感である。

○
 再び休憩所に入り、一同會社よりの晝餐の馳走に預つた、鯛の昆布卷、鮭の壽司、何れも新鮮にして美味、富山の名物たる此の種の珍味を工事現場で味ふは少し過ぎたりと思ふ

○
 歸路は取入口を見、水壓隧道を通つて、大なるサージタンクに出た、此は直径 70 呎、深さ 144 呎全然岩盤中に掘鑿したものである。

上部は混凝土を終り下部は鐵筋配置中である

○
 水壓鐵管路の傍を下つて発電所の上に出た鐵管は四本とも未設であるが、混凝土の基礎は既が出来上つてをる、発電所も機械の基礎混凝土工事を終つた處であつた。

○
 発電所傍で愈々歸りの汽車に乗る、僅かに數時間の小牧発電所の視察は唯あの堰堤工事の壯觀のみではなかつた。

さらば小牧よ
 健全なる完成をなせよ
 刻々こして進みつゝある其工事の過程は
 日本の工事技術に偉大なる暗示を與ふ
 細雨に曇つた小牧の谷は
 次第に遠ざかり行く
 兩岸の新緑は滴るばかり
 我が一行を祝福してくれる

○
 福野驛で庄川専用鐵道から加越線に乗換へ高岡市に着いたのが午後三時半、大急ぎに高岡物産陳列場と高岡公園を見物した。特産としては銅器、佛具等見るべきものがある。安い々々買込んで直接發送を依頼してをつた人も大分あつた。

○
 四時半に高岡驛を發して富山市迄約五十分の汽車、車中は大した洒落もなく無事に富山驛下車、自動車にて直に富山ホテルに入る。



(3) 東岩瀬海岸海水浴の景

(3) The port will be crowd of people when summer visits there.

富山ホテルは日本式の舊き旅館である、一室に三人以上を入れてやつこ一行百十餘人を泊める事が出来た。唯便利なのは階上の大廣間を直に當夜の晩餐會場とした事である。

○

ホテルに於ける晩餐會は富山縣知事、庄川日電、昭和電其他の官民聯合の歡迎宴である日本室の大廣間の上手には井上團長、那波博士、井上範博士其他の先輩連左右兩側に會員一同、下手に主催側の白根知事及び縣土木課長木村憲七郎氏其他水電會社幹部約百五十名位を見た。

○

主催者側を代表して白根知事及び木村土木課長先づ立ちて歡迎の挨拶をなし、井上團長之に謝辭を述べて何れも大拍手に迎へらる。それから先は獻酬談笑、美味滿腹、富山一流の藝者が數十名で景氣をつける程に興は益々加はる。斯くて和氣滿堂の内に十時頃閉會した。

○

晩餐會の席上、富山藝者の踊りに次いで、庄川の上流、五箇山の平村から呼寄せた特種な郷土情調の踊があつた、之は昭和電力會社がわざわざ迎へたもので、男子のみの純朴な踊であるが、昔の平家が忍んでゐた土地さ云ふので著名なものであるそうナ。

○

五月十五日午前八時半に富山ホテルを發、自動車にて製藥を以つて有名なる廣貫堂を視察した、北國の暗い室で軒を列べた藥種屋から富山の藥は全國に出るものと思つてゐたが、まるつきり異つてゐた明い、清潔な室、で、機械設備の完全した處で、組織だつた製藥が行はれつゝある事だ

○

一同は反魂丹を一瓶宛貰つて、井上團長が此の名藥を貰つた上からは會員今後の旅行も安全であるさ云ふ挨拶を残して廣貫堂を出る、自動車で富山驛に着く。

○

富山驛から東南を見るさ高い山が屏風の如く列んで、五月中旬さ云ふのに何れも雪を頂いてをる、それが手近に見える。山は北方さのみ見順れた大平洋岸の人間には此の南方に連なる山を見あけて何さなく異郷の感あらしめた。然し此の山の雄偉の姿を見ては如何にも敬虔な登山を連想するのが男性さしての希望である。

○

富山驛から汽車は五十分間で三日市驛に着くが、其間に例の晨氣樓で有名な魚津の海岸を通過する、時は恰度其の五月で薄曇つた日であるが、あいにく現はれなかつた。

三日市驛で黒部鐵道に乗換へる。一時間で宇奈月温泉に着く宇奈月には日本電力會社の出張所があつて、樓上に迎へられ其所で町重なる晝餐の洋食に預かる、此所で柳河原發電所の圖面や説明書を渡される。(次號へ)